

令和 6 年度荒尾市総合計画審議会 議事録要旨

- 【日 時】 令和 6 年 8 月 8 日（木） 14:00～16:00
- 【場 所】 荒尾市役所 11 号会議室
- 【出席委員】 7 ページを参照
- 【事務局】 石川総務部長、田川地域振興部長、片山市民環境部長、
橋本保健福祉部長、末永建設農水部長、
中山総合政策課長、林田政策推進室長、末吉

記録者：総合政策課 末吉

1. 開会

中山課長が開会を宣言し、配付資料の確認を行った。

2. 新委員紹介

5名の委員が交代となり、委嘱状の交付を行った。

3. 会長あいさつ

荒井会長があいさつを行った。

今回は総合計画の成果検証の結果と改善方針を中心に、委員の皆様においては、大所高所から積極的にご意見をいただきたい。

4. 市長あいさつ

浅田市長があいさつを行った。

荒井会長をはじめ、委員の皆様には日頃から総合計画の推進にご理解、ご協力を賜り、厚く御礼申し上げる。

昨年度は、デジタル技術を活かした新たな地方創生を推進するとともに、急速に進む少子化への対策を強化するため議論いただき、本年2月に総合計画を改訂したところである。少子化対策については、今年度から第2子以降の保育料の無償化や特定不妊治療の助成、学童保育の拡充等を新たに事業化した。

今日は総合計画の施策の成果検証をお願いするが、計画通りに進むことばかりではないので、それぞれの立場で、様々な角度から厳しいご意見・ご提案いただけると有難い。皆様のご意見を踏まえて来年度以降もまた成果が残せるように努力してまいりたい。

5. 議事

荒尾市総合計画条例第8条第2項に基づき会長が議長となり、荒井会長が以降の議事を進行した。

(1) 総合計画の政策体系及び推進体制について

林田室長が、資料1-1及び1-2に基づき説明を行った。特に質疑はなし。

(2) 令和5年度成果検証結果及び改善方針（案）について

林田室長が、資料2に基づき説明を行った。主な意見等は以下のとおり。

《主な意見等》

- 荒尾市で子育てをしたい市民の割合が高く、いい傾向だと思うが、割合が高い背景は何かあるか。
→本市が取り組んでいる子育て支援の事業が効果につながっているのではないかと捉えている。総合計画の改訂に伴い、市内企業にお勤めの方や若い世代の方に話を伺ったが、その際の意見として、給食費の無償化や医療費助成等の経済的負担への支援や、子どもと一緒に楽しめる場所ができたなど肯定的な意見が寄せられた。これらの取組が子育てしやすいまちとしてのイメージ形成につながったのではないかと考える。(事務局)
- 病院やスマートシティの建設が進んでいる中での財政状況はどうなっているか、今後の見通しがあるのか。
→病院事業は公営企業会計として経営を行っている。その他事業についても可能な限り、デジタル田園都市国家構想交付金等の国庫補助金を活用しながら、市の負担抑制に努めている。(事務局)
- 8/4に荒尾防災士の会を設立した。荒尾市に防災士は百数十名おり、その半数程度が入会され、活動することとなった。より災害に強いまちづくりが増進されるのではないと思う。
- 気候変動により、熱帯化が進んでいる。森林公園など緑地があることで気温の上昇を抑える取組を行っている自治体も見られる。歩道や公園などに大きな樹木を増やすなどして、夏場でも動きやすい環境を作る必要があるのではないか。
→本市ではR4に地球温暖化対策実行計画を作成し、CO2や温室効果ガスの削減に取り組んでいる。温暖化対策は時間がかかる取組であり、本市だけで解決できる問題ではないが、本市としてできることを実施していきたい。(事務局)
→海陽スマートタウンについても、公園緑地をできるだけ広く設け、芝生広場や樹木を植えることで、CO2削減の観点からまちづくりを進めたいと考えている。その他の宅地についても、緑地を作っただけでなくよう依頼している。また、再生可能エネルギーの太陽光発電や蓄電池の設置について市独自の補助メニューを利用させていただくことで、市民・事業者・行政が一体となってCO2削減に努めていきたい。(事務局)
- 総合計画を具現化していくためにも、荒尾市に人が残ることが大事であって、特に若年女性が地元に残ってもらえるような施策を行っていくことがポイントだと思う。市として何か考えはあるか。
→昨年度立ち上げた少子化対策部会にも関連してくる内容だと認識している。座談会やヒアリング、アンケートでの意見として、独身者からは市への愛着形成や出会いの場づくり、子育ての不安を取り除く等の意見があった。子育て世帯からは仕事と家庭の両立支援や子どもの居場所の確保、情報発信、社会全体の協力体制等の意見があ

った。幼児期から学生期までに愛着を形成することで転出しても荒尾市に帰ってきたくなくなるようなまちづくりを進めたい。また若年期は結婚希望があっても出会いの場が少ないため、気軽に出会える場の創出等を行う予定。妊娠・出産・子育て期は経済支援に加え、働く場所の確保など環境整備が必要。女性や若い世代に地元に残ってもらう、また一旦転出してもUターンで帰ってきてもらうような取組を行っていく。(事務局)

→様々な選択ができるように企業誘致を進めていく必要があると考えている。昨年度は6件の立地協定締結により105名の新規雇用を創出予定。海陽スマートタウンのディスカウントストアでは150名の新規雇用を予定している。雇用の場が不足していると認識しているため、引き続き継続して、企業誘致等を行っていく。また奨学金返済の市独自の補助メニューを設置している。中小企業の人手不足についても踏み込んだ政策ができないか考えていく。(事務局)

→雇用機会は若い世代の移住や定住に欠かせない要素であり、企業誘致は一つの大きな施策かと思う。TSMCが進出したまちは人口が増えているが、高等学校がなく、若者をどうやって引き留めるかが課題になっている。教育面の魅力を高めていくことも重要な検討課題である。

- 小・中学校の全国学力学習状況が全国平均をかなり下回っているが、これをどう是正するかが課題である。点数を上げるためには、中間層あるいはそこに満たない層がいかに点数を伸ばすかが点数が上がってくる一つの要因ではないかと思う。また家庭学習をどうするか。家庭学習をすることが難しい家庭は多くいる。全国的に見ても9人に1人は経済的支援が必要で、荒尾市でも同様の数値が出ている。ここをどうやって底上げしていくかが課題である。タブレットを活用し、市として直接家庭学習に介入していくことをお願いしたい。荒尾市も高等学校が少ないため、市外の高校に行くこととなる。その際に競争するのは、市外や県外、九州内の者となる。低所得者に関する塾に代わるものを積極的に取り入れてもらいたい。

→小・中学生が主体的に勉強するあらおベーシックという一つの形を作り、やる気を引き出している。ただ、授業と家庭学習の連動が上手くいっていなかったため、今年はしっかりと連動させ力をつけようと取り組んでいるところ。学力が定着しないことについては、中学3年生は夏休み前から有明高専の学生や地域の方から分からないところを学校の中で個別に教えてもらう、地域未来塾というものを行い、高校進学につなげる取組を行っている。

- AraoPAYのキャッシュレス決済が行われているが、高齢者も使いやすいように以前の紙による商品券のようなものもお願いしたい。
→商品券に代わるものとして、プリペイドカードの発行を開始している。スマートフォンでのキャッシュレス決済が苦手な方はプリペイドカードをご利用いただければと思う。(事務局)
- 令和5年度の出生率は未公表となっているがどういう状況か。令和7

年度の人口目標を 51,000 人にしており、現状が 48,821 人だが、人口増加の取組を考えているか。以前荒炎祭があったが、ふるさと愛の形成や交流人口の増加につながると思うが、今後市民の祭りをする予定があるのか。

→現時点で出生率の数値が出ていないため、未公表としている。今年の後半ごろには公表できるかと思う。

人口増加について、少子化も含めて昨年度総合計画を改訂し、まずは若者の本市への愛着形成から進めていく予定。時間がかかるものだと思うため、徐々に成果が表れていくのではないかと思う。

地元愛の醸成につながる機会を作ればとは考えている。(事務局)

→交流人口の拡大ということで、国内だけでなく外国人観光客が増えてきている。道の駅がオープンするため、グリーンランド以外にも立ち寄ってもらえるよう施設ができるため、例えば熊本市や阿蘇市に行く時に荒尾市を通過するため、どうやって荒尾市に立ち寄ってもらえるかを検討する必要がある。荒炎祭の件については、担い手不足により中止となった経緯があるため、どういう祭りの在り方がいいか今後検討していきたい。一方で、万田坑で開催される夜市や水鳥湿地センターの夕日が見えるコンサート等のイベントが行われている。観光協会や商工会議所等と連携し、愛着を形成できるような祭り等のイベントを検討していく。(事務局)

- 防災をテーマとした祭りを考えてほしい。祭りを通じて人がつながることで災害時の要支援者の把握や共助のネットワークづくりに寄与している事例もある。

→9/1 に本市の防災フェスタを開催する。関係団体に集まってもらい、展示や防災の紹介等を行う。このようなイベントを通じて、団体間のネットワークづくりを支援していきたい。(事務局)

- 人口減少や高齢化が進んでいる現状では、今よりも人口が増えると考えるのは幻想ではないか。人口減少をどれだけ抑えるかが重要だ。そのためにも行政は雇用の場の創出にしっかりと取り組んでほしい。

(3) デジタル田園都市国家構想交付金事業の効果検証結果について

林田室長が、資料 3 に基づき説明を行った。主な意見等は以下のとおり。

《主な意見等》

- あらお健康手帳はどこの病院でも出してもいいのか。

→基本的には大丈夫。どこに受診したか分かるためぜひ出していきたい。デジタル健康手帳も並行して使用できるよう取り組んでいる。病院や薬局だけが保有している医療データを自分でも見られるようになることで、家族の健康状態の共有なども可能となる。

最後に荒井会長から総括がなされた。

《総括》

荒井会長 各委員から貴重な意見をいただいた。
行政サービスとしてワンストップサービスが必要。しっかりと
とした施策・企画を立てて行ってほしい。
また荒尾市の魅力を高めるには、若年女性の活躍する場の創
出や教育投資の拡大、企業誘致を含めた働く場の創出を行っ
ていく必要がある。更に人口減少対策として都市圏からの人
材を誘致するための地域おこし協力隊の活用や、今後増加が
見込まれる外国人人材との共生についても検討していく必要
がある。

5. その他

中山課長が、議事録を市ホームページに掲載するに当たり、内容の確認
について協力を依頼した。

6. 閉会

中山課長が、閉会を宣言した。

令和6年度 荒尾市総合計画審議会 出席者名簿

	分野	団体名	役職名	氏名	備考
1	学識経験者	熊本学園大学	元経済学部教授	荒井 勝彦	
2		九州看護福祉大学	社会福祉学科特任准教授	李 玄玉	欠席
3		有明工業高等専門学校	校長	八木 雅夫	
4	経済	荒尾商工会議所	会頭	高木 洋一	
5		一般社団法人荒尾市観光協会	会長	山代 秀徳	欠席
6		玉名農業協同組合荒尾市総合支所	担当理事	迎 五男	
7		荒尾漁業協同組合	代表理事組合長	西川 幸一	欠席
8	金融	肥後銀行荒尾支店	支店長	前田 裕規	欠席
9	労働団体	連合熊本肥後有明地域協議会	議長	馬場 清治	
10	雇用	玉名公共職業安定所	所長	中村 由紀(新)	
11	職業訓練	独立行政法人高齢・障害・求職者雇用支援機構 熊本支部熊本職業能力開発促進センター	荒尾訓練センター長	坂本 和隆(新)	
12	教育	荒尾市教育委員会	教育長	浦部 眞	
13	医療	荒尾市三師会(荒尾市医師会)	会長	伊藤 隆康	欠席
14	スポーツ	荒尾市体育協会	会長	松尾 州裕(新)	
15	文化	荒尾市文化協会	会長	井上 泰秋	
16	住宅	熊本県宅地建物取引業協会荒尾支部	支部長	下田 次郎	
17	結婚	有明広域行政事務組合 (荒尾・玉名地域結婚サポートセンター)	総務課長	隈部 啓司(新)	
18	福祉	荒尾市社会福祉協議会	会長	丸山 秀人	
19	市民団体	荒尾市子ども会連合会	会長	橋本 誠剛	
20		荒尾市老人クラブ連合会	副会長	辛島 正春	
21		男女参画ネットワークあらお	代表者会代表	坂田 尚子	
22	住民代表	荒尾市行政協力会	会計	林 一夫	
23		荒尾市地区協議会会長会	会長	河部 啓宣	
24		公募委員	—	陣内 透	
25		公募委員	—	甲木 喜一郎	
26	熊本県	県北広域本部玉名地域振興局	局長	坂口 啓介(新)	
27	行政	荒尾市	副市長	田上 稔	
				※敬称略、順不同	